

「地域の教育力を活かした活動」から「ESD」へ

～「学び」「地域」「対話」をとおして～

北海道小樽高等支援学校

校長 松浦 孝寿

担当 徳永 光

1 活動の趣旨

北海道小樽高等支援学校は、近年の社会動向や特別支援学校高等部職業学科卒業生の進路先等を踏まえ、北海道で初めて「環境・流通サポート科」「福祉サービス科」「生活技術科（現生産技術科）」の3学科と従前から設置されていた「木工科」「生活家庭科（現家庭総合科）」の計5学科を設置し、平成21年度に開校、今年度開校10周年を迎えた。

開校から、教育活動の一つの柱と位置付けて取り組んできた「地域の教育力を活かした活動」は、生徒の日ごろの学習活動で得た「学び」を「地域」で実践・確認し、多くの人たちとの「対話」で「学び」を深め、定着することを目的として取り組んできた。

また、地域での活動は、東南アジア支援の活動をしているNPO団体との出会いにより、国際貢献へと発展し、現在に至る。今年度、これまでの取組が評価され、「持続可能な開発のための教育」の推進校として今年度ユネスコスクールとして認定された。

2 活動計画

(1) 環境

- ・ 学校の近隣地域での清掃、除草、除雪等の環境整備、海水浴場の清掃活動

(2) 防災

- ・ 被災地についての理解、実施可能な支援活動の模索と支援（被災地物産品の販売と募金）

(3) 生物多様性・健康・福祉

- ・ 高齢者・障害者理解と支援（独居老人宅の環境整備、介護職員初任者研修）、異年齢者（幼少児及び高齢者）との活動

(4) 人権・福祉

- ・ いじめ撲滅に向けての図書館の読み聞かせと生徒会による啓発

(5) 持続可能な生産と消費

- ・ 再生可能な材料（紙パック、集成材、寄木）を活用したものづくり、リングプル・ペットボトルキャップ等の収集と活用

(6) グローバル・シチズンシップ教育、異文化理解

- ・ 地域理解と貢献活動（シチズンシップ教育）～小樽市銭函地区の歴史や文化についての学習
- ・ 国際理解と貢献活動（グローバル教育）～NPOやNGOとのパートナーシップによるミャンマーの小学校への囲碁セット・縫工製品の寄贈活動への参画（製作・納品）

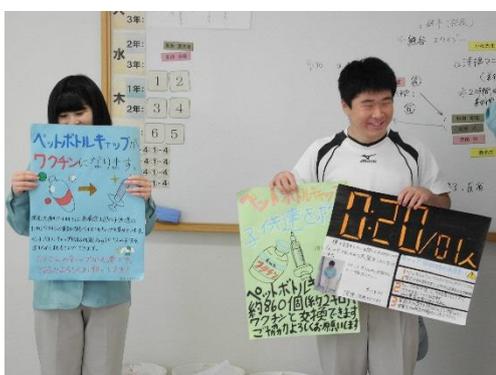
3 活動事例



【環境～地域の海水浴場清掃】



【福祉～地域の独居老人宅の除雪】



【リサイクル活動】



【健康～老人福祉施設での活動】



【国際貢献～ミャンマーへの製品寄贈】
(手前が本校製作の囲碁セット)



【多様性～保育所での交流】

4 成果と課題

「地域の教育力を活かした活動」は、生徒の実態や地域のニーズに合わせて少しずつ変化し続けてきた。その結果、現在では地域資源の一つとして地域の方々から認めていただけるようになった。

今後、生徒とともにESDについての「学び」を深め、SDGs達成の一助となる活動の推進を図っていきたい。